彦根統合新校設置懇話会　第５回会議　概要

１　日　時

平成２６年１月２９日（水）　１０：００～１２：００

２　場　所

県立彦根翔陽高等学校　セミナーハウス

３　会議の内容

統合新校の校名案について

４　出席者

（１）委　員

杉本　定幸　　委員（彦根翔陽高校同窓会　会長）
福渡　　努　　委員（滋賀県立大学人間文化学部　准教授）
藤田　隆行　　委員（彦根西高等学校同窓会　会長）
堀川　英雄　　委員（彦根市企画振興部　部長）
宮野　由紀絵　委員（彦根西高等学校　学校評議員）
八谷　啓子　　委員（彦根翔陽高等学校　学校評議員）
※　岡崎　正彦　委員（彦根市ＰＴＡ連絡協議会　会長）は欠席

（２）統合新校開設準備室

小林　庄司　　統合新校開設準備室長（彦根翔陽高等学校長）
篁　　大英　　統合新校開設準備室参事（彦根西高等学校長）
茶谷　不二雄　県教育委員会事務局学校支援課参事

５　主な意見

○　第４回懇話会では、「彦根芹川」「翔陽」「翔西館」「彦根旭」「彦根彩華」「彦根清翔」「彦根西翔学館」「彦根中部」「彦根飛翔」の９つの校名候補に絞られた。ただし、「翔西館」については、「彦根」を冠することも含めて考える。また「彦根」を冠する校名が良いという意見が多数であった。今回は、これを踏まえ、新たな校名候補があれば挙げてもらい、さらに候補を絞り込んでもらいたい。

○　全く新しい校名になるのは寂しい。何か分かりやすい校名を付けることで、これまでの学校と繋がっていたいという気持ちは大切にしたい。

○　「彦根芹川」「彦根旭」は、全国に羽ばたく学校をつくると言っているのに、限定された地域の地名を校名に付けるのはどうか。

○　両校の伝統や歴史などを受け継いでいきたいので、「翔西」の付いた名前が良い。また、「彦根」を冠する校名が良い。

○　「翔」は昇る朝日、「西」は沈む夕日を連想できる「彦根翔西」「彦根翔西館」を候補としたい。太陽が昇り、沈むこの順が良い。「翔」という字を学校のシンボルとしてほしい。

○　「翔」と「西」を付ける場合、どちらを先に付けるか、付ける順番で両校関係者の間に意見が分かれることも考えられる。思い切って違う校名を付けた方が良いと考えている。

○　新しい校名を付けるという考え方や、現に関わりを持っている人が伝統を残したいという考え方や思いもよく分かる。基本的な部分で合意が得られたらよい。

○　総合学科を受け継ぐ意味で、現在の校名を残した方が良いと思っている。市町村合併で地名も変わる時代だし、県立高校なので「彦根」にこだわる必要はない。そういう意味で、

「彦根」は付けない「翔陽」が良い。校名はシンプルなものが良い。
○　新しいものを生み出すという意味で、「翔陽」でない方が良い。
○　１文字ずつ使った校名が良いというのは、両校の歴史を次の世代にも語り継いでいくことができるのではという考えから。「西」「翔」の順番は、最初に付いても後に付いても、どちらでも良い。
○　校地は彦根翔陽高校の校地になるので、校名には「西」の名前を残してほしいという思いがＯＢにはある。「西」だけを付ける校名は難しいが、「翔」と合わせた校名なら考えやすい。
○　校名を１つに絞っていくことは難しい。それぞれの校名案の良し悪しではない。新校で学ぶ高校生にとって良いと思える校名で、意味があるものであれば良い。
○　「学びの共同体」の実践を引き継いでいくという意味でも、みんなで学んでいく、学びの館という意味を込めて「館」を付けたい。
○　校名候補を絞っていくに当たり、「地名を冠する校名」、「両校の校名を合わせた校名」、「全く新しい校名」３つのグループに分けて意見をいただきたい。
○　「彦根芹川」の芹川を付けることは、全国や県から見れば小さい校名になることは理解しているが、両校の横を流れるゆかりのある川であり、候補として残してほしい。
○　そのまま受け継いでほしいという意味で、「翔陽」は残してほしい。
○　「翔陽」を付けることで、対等統合が見えなくなる。「翔」の字を残したいのなら、「彦根翔陽」でなくても良いと思う。
○　「彦根飛翔」は、彦根翔陽高校の学園祭「飛翔祭」を想起させるということもある。また、「飛」も「翔」も同じような意味が重なるのはどうか。
○　「彦根旭」について、「旭」は新校が立地する周辺の地域名であるが、芹川より限定した地域名を校名に付けることになる。「地名を冠する校名」として、「彦根芹川」との比較になる。
○　「彦根中部」について、新校の場所は地理的に彦根の中部とはいえない。
○　「彦根西翔学館」について、長くて非常に読みづらくなる。校名は読みやすく書きやすいものが良い。部活動などのユニフォームに校名をローマ字表記することもある。
○　「彦根彩華」について、読みが「さいか」ではなく、女性の名前としてよく「あやか」と読むこともあり、まぎらわしい。

○　最終的な校名候補は、「彦根芹川」と「彦根翔西館」とする。なお、両方とも所在地を表すために「彦根」を冠するものを候補とし、「芹川」の読みは、「せりかわ」とする。
○　委員２名が、「彦根翔西館」を第１候補に推すという意見もあったが、懇話会として候補の順位付けはしない。
○　「彦根芹川」を候補とする懇話会の意見のまとめは次の通り。
・　統合対象校両校が彦根の中心部を流れる芹川のほとりにあり、なじみがあること。
・　新校が設置される彦根翔陽高校の所在地が芹川町であること。
・　彦根市以外の人からすると分かりづらい。狭い地域の名前。
○　「彦根翔西館」を候補とする懇話会の意見のまとめは次の通り。
・　両校の校名を一文字ずつ引き継ぎ、両校の伝統や歴史を次の世代に語り継いでいくことが表されている校名になっていること。
・　みんなの学びの館という意味合いの「館」を付けることは、県内の校名としては新鮮。音の響きも良い。
・　「翔」は昇る朝日、「西」には沈む夕日を連想させ、この学びの館でかけがえのない高校生活を、一日一日有意義に過ごしてほしいという願いが込められている。
・　単に両校の校名を合わせただけだと思われる。